

「ドリームBTジャパン」中間とりまとめからの修正箇所の一覧

中間とりまとめ	最終案
<p>I. はじめに (中略)</p> <p>○その成果として、平成13年からの5年間で日本の経済成長率は10%の伸びを示す^{注1)}中で、バイオ医薬などのニューバイオ利用産業の成長率は39%という高い値を示すことができた^{注2)}。</p> <p>○しかし、一方で世界に目を転じると、その間に米国は119%、欧州は53%、カナダやアジア・太平洋地区では約200%の伸びを示した^{注3)}。特に、最近では、シンガポール、韓国、中国などが研究開発能力の面でも急速に発展をとげている中、このままの状況では、我が国のバイオテクノロジーを基盤とする産業の国際競争力が低下し、その活力が損なわれることが危惧される^{注3)}。</p> <p>○このような状況を打破するためには、平成14年に策定されたBT戦略大綱の取組や大綱策定以降の状況を総括し、遺伝子組換え技術やバイオ燃料利用技術といった大綱策定以降の状況の変化に対応し、バイオテクノロジーを一層推進して行くことが必要である。</p> <p>注3)</p>	<p>○平成13年からの5年間で日本の経済成長率は10%の伸びを示す^{注1)}中で、バイオ医薬などのニューバイオ利用市場の成長率は39%という高い値を示すことができた^{注2)}。</p> <p>○しかし、その間の米国、欧州など諸外国のバイオテクノロジーを基盤とする産業の発展は日本を凌ぐ状況にあると考えられる^{注3)}。また最近では、シンガポール、韓国、中国なども研究開発能力の面でも急速に発展をとげており、我が国においてバイオテクノロジーを基盤とする産業の活力とその発展能力を確保できるかにつき、一部では危惧されている。</p> <p>○したがって、平成14年に策定されたBT戦略大綱の取組や大綱策定以降の状況を総括し、遺伝子組換え技術やバイオ燃料利用技術といった大綱策定以降の状況の変化に対応し、バイオテクノロジーを一層推進して行くことが必要である。</p> <p>注3) (追加)</p> <p>The Pharmaceutical Industry in Figures, European Federation of Pharmaceutical Industries and Associations, 2007 政策研ニュース No.23, 医薬産業政策研究所, 2007 (Pharmacoprojects database による集計)</p>

<p>Ⅱ. B T 戦略大綱策定以降の状況 (中略)</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>環境問題の解決のために食料資源との競合を避けながら、石油に代わるエネルギー源、工業原料としてのバイオマスの利活用に向けた研究開発が必要</p> </div> <p>(中略)</p> <p>○しかし、一方でバイオマスの利用は、世界的にみると食料資源との競合問題を引き起こしている。</p> <p>(中略)</p> <p>Ⅲ. 「ドリームB T ジャパン」が示すイノベーション強化11項目 (中略)</p> <p>1. 創造的研究開発によるフロンティア開拓の加速化 (1) イノベーションを継続的に創造する研究基盤の抜本的強化 (中略)</p> <p>○産学官が連携して、産業化を担えるバイオテクノロジー人材の育成や体制整備に取り組む。</p> <p>(中略)</p> <p>2. 新技術の開発の加速と社会への迅速な普及 (4) バイオテクノロジーを活用した革新的な医薬品や医療機器の開発を加速させる基盤の整備及び関連の技術開発 (中略)</p>	<p>など</p> <p>○しかし、一方でバイオマスの利用は、世界的にみると食料資源との競合問題を引き起こす可能性が懸念されている。</p> <p>○産学官が連携して、産業化を担えるバイオテクノロジー人材の育成や体制整備に取り組む。また、植物バイオ、環境バイオなどの研究を進める上で必要な拠点の整備についても、国家プロジェクトとして産学官の連携の下で早急に取り組む。</p>
--	---

<p>○橋渡し研究と臨床研究の一層の強化を目指し、政策を遂行していくための司令塔機能を設置する。</p> <p>(中略)</p> <p>○再生医療の早期実用化、産業化を目指して、患者自身の間葉系幹細胞等の安全性・有効性に関する計測・評価技術及び計測機器を開発する。</p> <p>(中略)</p> <p>(5)健康の保持増進に関する国民の期待に応える食品の研究開発と実用化の推進</p> <p>(中略)</p> <p>(中略)</p> <p>(6)食料問題解決のためのバイオテクノロジー研究と実用化の推進</p> <p>○食料自給率向上を目指し、多収性のイネや湿潤環境に強いコムギ・ダイズの生産技術を開発し実用化するとともに、生産者と消費者双方にメリットがある作物の研究開発に向けて、バイオテクノロジーの活用を推進する。</p> <p>(中略)</p>	<p>○橋渡し研究と臨床研究の一層の強化を目指し、健康研究推進会議を永続性のあるものとし、健康研究の司令塔機能の役目を果たしていく。</p> <p>○再生医療の早期実用化に向け、国際的な整合性に留意しつつ、産官学連携の下、幹細胞由来製品などに関してより具体的な考え方等の作成を進め、患者自身の間葉系幹細胞等の安全性・有効性に関する計測・評価技術及び計測機器を開発する。</p> <p>(追加)</p> <p>○新たな研究開発の実用化について、その推進を図るため、有効性・安全性が確認された特定保健用食品に関して、国民への情報提供を進めていく。</p> <p>○イネなどのゲノム情報を活用することにより、飼料作物を含めた食料自給率向上を目指し、多収性のイネや湿潤環境に強いコムギ・ダイズの生産技術を開発し実用化するとともに、生産者と消費者双方にメリットがある作物の研究開発に向けて、バイオテクノロジーの活用を推進する。</p>
--	--

<p>○GMOの研究を推進するため、国民の理解を得ながら、生物多様性などの環境面にも配慮しつつGMOの屋外栽培実験施設を整備し実験を行う。</p> <p>(7) 環境に優しい低炭素社会実現と環境修復のための技術開発と実用化支援 (中略)</p> <p>②食料と競合しないバイオ燃料の効率的な生産技術</p> <p>○国産バイオ燃料の大幅な生産拡大及び、生産コストの低減を図る。 (中略)</p> <p>(8) 研究開発の実用化に向けた社会基盤の整備とシステム改革の実施 (中略)</p> <p>(中略)</p> <p>(11) 国のリーダーシップによるバイオテクノロジーに関する国民理解の推進</p> <p>○「BT戦略推進官民会議」に「バイオ応用推進委員会（仮称）」を設置し、そのリーダーシップの下に、バイオテクノロジーに関する国民理解を推進する。 (中略)</p>	<p>○GMOの研究を推進するため、生産現場の意見や海外情勢等を踏まえ、国民の理解を得ながら、生物多様性などの環境面にも配慮しつつGMOの屋外栽培実験施設を整備し実験を行う。</p> <p>○国産バイオ燃料のビジネスモデルを明確にし、開発を集中・加速することで大幅な生産拡大及び、生産コストの低減を図る。</p> <p>(追加)</p> <p>○バイオ医薬品を含めた医薬品・医療機器開発関連のベンチャー企業の育成等について官民対話等において引き続き検討を行う。</p> <p>○「BT戦略推進官民会議」に「国民理解推進作業部会」を設置し、そのリーダーシップの下に、バイオテクノロジーに関する国民理解を推進する。</p>
---	---

IV. 官民が協働で取り組むべき最重点課題

BT戦略推進官民会議においては、豊かで活力ある日本を創るため、11項目からなる新たなBT戦略（ドリームBTジャパン）を策定し、官民の総力を挙げて取り組んで行くこととしている。

その中でも、とりわけ取り組みの必要性が高く、官民が協働で取り組むべき課題は、バイオテクノロジーに関する教育や国民理解の促進である。

そのため、BT戦略推進官民会議として、「**バイオ応用推進委員会（仮称）**」を設け、BTの社会での活用の基礎となるバイオテクノロジーについての教育や国民理解を促進し、同時に、「ドリームBTジャパン」の11項目を**着実に実行すること**により、活力ある社会を創造して行くことに取り組んで行く。

（中略）

○したがって、BT戦略推進官民会議としては、産学官からなる「**バイオ応用推進委員会（仮称）**」を設け、バイオテクノロジーに関する教育や国民理解を促進するとともに、「ドリームBTジャパン」の11項目を**着実に実行し**、活力ある社会を創造して行く。なお、委員会の構成など、**具体方策については、最終報告に向けて引き続き検討を行うこととする。**

BT戦略推進官民会議においては、豊かで活力ある日本を創るため、11項目からなる新たなBT戦略（ドリームBTジャパン）を策定し、官民の総力を挙げて取り組んで行くこととしている。

その中でも、とりわけ取り組みの必要性が高く、官民が協働で取り組むべき課題は、バイオテクノロジーに関する教育や国民理解の促進である。

そのため、BT戦略推進官民会議として、「**国民理解推進作業部会**」を設け、BTの社会での活用の基礎となるバイオテクノロジーについての教育や国民理解を促進し、同時に、「**フォローアップ作業部会**」を設け、「ドリームBTジャパン」の11項目の**着実な実行をフォローアップすること**により、活力ある社会を創造して行くことに取り組んで行く。

○したがって、BT戦略推進官民会議としては、産学官からなる「**国民理解推進作業部会**」を設け、バイオテクノロジーに関する教育や国民理解を促進するとともに、「**フォローアップ作業部会**」を設け、「ドリームBTジャパン」の11項目の**着実な実施をフォローアップすること**により、活力ある社会を創造して行く。（以下削除）